# 28PA-am139

退院後の自立に向けた自己管理導入指標を用いた患者の薬剤管理能力の評価の検討

○永田 実沙[1], 西田 有美子[2], 稲垣 のぞみ[2], 宮井 涼子[2], 大津山 裕美子[2], 安原 智久[1], 曽根 知道[1]（[1]摂南大薬, [2]洛和会音羽リハビリテーション病院）

【目的】超高齢化社会に伴い、慢性期・回復期の医療は入院から在宅への移行が進められている。在宅で医療を受けるためには、自らの服薬管理等は基本的には自ら又は家族が行うこととなるが、自己の服薬管理について退院後の環境を見据えて入院中に評価し、退院時に備えるという流れは少ない。そこで今回、入院患者における内服薬の自己管理能力について、独自に作成した自己管理導入指標（以下、評価表）を用いて検討し、個々の患者における問題点の明確化を試みた。

【方法】京都府にある洛和会音羽リハビリテーション病院にて、主に新規入院の患者を対象とし、2017 年 7 月～10 月に自己管理評価を行った。薬剤部各部員に評価表の使用方法を説明し、初回面談時に評価を行った。評価結果と薬剤師が介入せずに自己管理が導入された時期、自己管理患者の服薬ミス事例などを調査した。

【結果】自己管理評価を実施した結果、15 人に対して自己管理が必要又は可能との判断がなされた。その後 11 人に自己管理が導入されており、導入までの期間は平均 11±9.8 日で平均在院日数は 60.2±38.6 日となった。自己管理導入後、BOX セット間違い、服薬を忘れる等のミスが 5 件起こっており、評価に 2 以下がある場合に頻度が高い傾向がみられた。

【考察】評価結果と服薬ミスの有無に相関がみられることから、本評価表が服薬を自己管理する上で、ある程度指標となる可能性が示唆された。また、昨年度の自己管理導入期と比較して在院日数に延長傾向がみられたことから、薬剤師の継続的な自己管理介入が入院期間の短縮になる可能性も考えられる。今後、個々の患者の問題点毎に有効な自己管理指導時期を検討すると共に、退院後の生活改善に繋がる個別最適化された自己管理導入教育を検討していきたい。